

人文知コレギウム

心理学の世界

第26回

日時

12月1日(水)

第27回

12月22日(水)

13:30-14:30



ワーキングメモリ：現在の記憶
坪見博之 (心理学・准教授)

ワーキングメモリは、容量に厳しい制約を持ちながら、目標行動に必要な情報を一時的に保持する「現在の記憶システム」であると想定される。しかし、実際に、目標に沿って情報が保持・消去されているのかは不明な点も多い。

本発表では、ヒトを対象とした脳波と行動計測によって、ワーキングメモリが、時々刻々と変化する目標と達成に基づき情報を保持・消去している様子を示す。また、記憶の利用に焦点を当て、ワーキングメモリの役割を捉え直したい。

14:30-15:30



離婚後の親子関係を考える
直原康光 (心理学・講師)

日本では、年間約20万人の子どもが親の離婚を経験している。離婚後の親子を巡っては、現在、法制審議会で、親権、面会交流、養育費等の制度面の議論が行われている。

本発表では、離婚後の親子を巡る課題を概説した上で、心理学的な観点から、離婚後の父母や親子の関係性が子どもにどのような影響を与えるのかに関する実証データを用いた研究を紹介する。

13:30-14:30



**心理的ストレスモデルからみた
青少年の“コロナ禍”**

飯島有哉 (心理学・講師)

2019年12月にCOVID-19の感染拡大が始まってから2年が経過しようとしている。此度の感染症拡大は医療領域にとどまらず、さまざまな社会現象を引き起こし、人々のメンタルヘルスにも少なからぬ影響をおよぼした。特に、その影響性は中高生をはじめとする青少年において顕著であったことが明らかにされつつある。

本発表では、心理的ストレスモデルの観点から、“コロナ禍”によって生じた青少年のメンタルヘルスの変化やその要因について直近の知見も紹介しながら考察する。

14:30-15:30



「気分を良くしたければポジティブ思考に！」という誤解：認知行動療法の

観点から 重松潤 (心理学・講師)

「落ちこんでるの？もっとポジティブになろう！」というような励ましの言葉をかけられたことはあるだろうか。これはともすれば、より落ちこみを深くさせる。ネガティブ思考をポジティブにすればよいという単純なものではない。それでは、気分の改善はどのようなメカニズムで起こるのだろうか。本発表では、認知行動療法およびそれを支える基礎的な心理学の知見を紹介しつつ、気分の改善のメカニズムおよび日常での活用について考察する。

開催
形態

オンラインZoom

参加費

無料

学生・一般の方の聴講歓迎

申込み

以下のQRまたはURLから、それぞれ事前申込みをお願いします



<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd6hDPF4EA6W49BWX-Zap0ewdeGYs3J7XtxhflV26CtOTKLBQ/viewform?vc=0&c=0&w=1&flr=0>



https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSc2Mb44RD9Dg403IMKBRuLSz25DbQLmKBYvk m3gCroMeATr_w/viewform?vc=0&c=0&w=1&flr=0